

# 環境農林水産常任委員会資料

## 目 次

### I 予算議案

【議案第1号】令和4年度宮崎県一般会計補正予算（第5号）

- |                 |       |     |
|-----------------|-------|-----|
| 1 環境森林部歳出予算(課別) | ..... | 3   |
| 2 補正予算事業        | ..... | 4~5 |

### II その他報告事項

- 令和4年台風第14号による森林・林業関係被害と対応について ..... 6~7
- 林地及び林道災害原因究明調査検討委員会の設置について ..... 8
- 「ひなたゼロカーボン<sup>ニ-ゼロゴ-ゼロ</sup>2050推進月間」について ..... 9~10
- JLPGAツアーチャンピオンシップリコーカップ建築物等への宮崎県産木材  
利用促進協定について ..... 11

令和4年11月1日  
環 境 森 林 部



# I 予算議案

## ○ 議案第1号 令和4年度宮崎県一般会計補正予算(第5号)

### 1 令和4年度環境森林部歳出予算(課別)

(単位：千円)

会計名	課名	令和4年度			令和3年度	
		補正前の額 A	補正額 B	補正後の額 C=A+B	当初予算額	最終予算額
一般会計	環境森林課	2,666,059	0	2,666,059	2,391,251	2,315,221
	環境管理課	366,273	0	366,273	620,577	605,422
	循環社会推進課	513,213	0	513,213	457,619	473,823
	自然環境課	3,798,703	2,006,628	5,805,331	3,761,660	4,961,527
	森林経営課	8,850,141	0	8,850,141	8,738,658	9,917,368
	山村・木材振興課	4,327,516	18,000	4,345,516	3,876,188	3,882,097
	小計	20,521,905	2,024,628	22,546,533	19,845,953	22,155,458
特別会計	森林経営課	355,043	0	355,043	351,707	256,320
	山村・木材振興課	902,868	0	902,868	864,747	881,032
	小計	1,257,911	0	1,257,911	1,216,454	1,137,352
合計	21,779,816	2,024,628	23,804,444	21,062,407	23,292,810	

## 2 補正予算事業

事業名	特用林産施設等被害対策緊急支援事業	新・改・既	課名	山村・木材振興課
		国庫・県単		
<b>1 事業の目的・背景</b>				
令和4年9月の台風第14号により被災した特用林産施設等の再整備に要する経費を支援することにより早期の生産再開を図る。				
<b>2 事業の概要</b>				
(1) 予算額 18,000千円				
(2) 財源 国庫				
(3) 事業期間 令和4年度				
(4) 実施主体 市町村				
(5) 事業内容				
林業者の組織する団体等に対し、被災した特用林産施設等の再整備に要する経費を支援する市町村への補助（補助率1/2以内）				
<b>3 事業効果</b>				
被災した特用林産施設等の再整備に対する支援を行うことで、特用林産物の生産量の回復が図られ、生産者の生産意欲が向上し経営の継続が可能となる。				

# 特用林産施設等被害対策緊急支援事業



## 【現状と課題】

- (1) 台風第14号により県内の特用林産物の生産施設等への被害が発生しており、早期の生産再開のため復旧支援が必要である。
- (2) しいたけ等特用林産物の生産は小規模で零細な生産者が多く、被災後の再整備費用の負担により生産意欲が減退し経営の継続が危惧される。

## 【事業内容及び効果】

人工ほだ場等破損



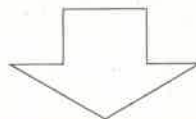
木炭窯建物屋根損傷



しいたけ原木流出・損傷



特用林産施設等の再整備に係る費用を支援



生産量の早期回復

生産意欲の向上

経営継続



## Ⅱ その他報告事項

### 令和4年台風第14号による森林・林業関係被害と対応について

環境森林部

#### 1 被害状況（総数）10月26日時点

被害箇所：659箇所 被害額：10,786百万円

##### (1) 林道被害

被害箇所：16市町村・179路線・459箇所

被害の概要：法面崩壊、路肩崩壊等

被害額：3,628百万円



延岡市（竜子・下祝子線）



椎葉村（十根川～三方界線）

##### (2) 林地被害

被害箇所：19市町村・98箇所

被害の概要：山腹崩壊、土砂流出等

被害額：6,931百万円



美郷町（北又江の原）



高原町（亀野）

##### (3) 森林被害

被害箇所：14市町村・21箇所

被害の概要：立木の折損・倒伏等

被害額：10百万円



西米良村（村所）

##### (4) 自然公園被害

被害箇所：3町・3箇所

被害の概要：倒木、歩道崩壊等

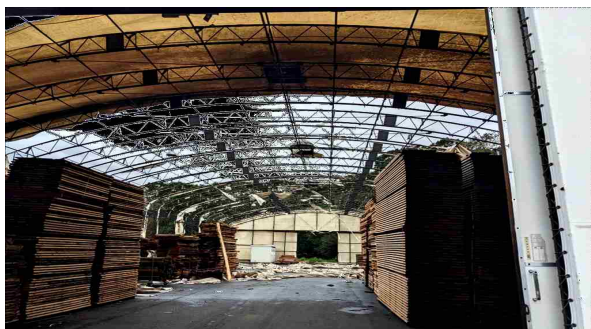
被害額：101百万円



高千穂町（九州自然歩道）

(5) 木材加工・流通施設被害

被害箇所：5箇所  
被害の概要：保管庫の屋根損壊等  
被害額：38百万円



日向市（資材保管庫の屋根損壊）

(6) 特用林産物生産施設被害

被害箇所：73箇所  
被害の概要：ほだ場損壊等  
被害額：77百万円



五ヶ瀬町（ほだ場とほだ木の損壊）

## 2 主な対応状況等

### (1) 災害箇所の早期復旧に向けた対応等

① 林道被害

林道を管理する市町村において、速やかに災害復旧が実施できるよう、工法検討などの技術的支援や人的支援を行うとともに、災害査定等に係る国との調整を行う。

② 林地被害

災害箇所について、速やかに調査測量設計業務を実施し、国や関係市町村と連携して迅速な応急対策及び早期復旧を図る。

③ 森林被害

国庫補助事業により、被害木等の伐採・搬出（特殊地拵え）及び速やかな再造林を推進し、早期復旧を図る。

④ 自然公園被害

国交付金事業や県単事業により、関係町と連携して九州自然歩道の手摺りや路盤が流出する等、被害が甚大な箇所を優先して早期復旧を図る。

⑤ 木材加工・流通施設被害

各施設の損害保険適用等により復旧予定となっている。

⑥ 特用林産物生産施設被害

国庫補助事業や県単事業等により再整備に要する経費を支援する。

### (2) 国への要望

① 農林水産省（林野庁）への要望

林地崩壊や森林被害及び林道施設災害等の早期復旧を図るための予算確保と重点配分について要望  
（9月30日 知事から農林水産大臣への要望 等）

② 環境省への要望

九州自然歩道の被害について、国交付金事業の予算確保と本県への追加配分について要望  
（9月26日 環境森林部長から環境省への要望 等）



# 林地及び林道災害原因究明調査検討委員会の設置について

自然環境課  
森林経営課

## 1 設置の目的

令和4年台風第14号による既設残土処理場の崩壊や土石流の発生について、その原因究明・分析を行い、災害復旧事業の設計・施工に反映させるとともに、今後の類似災害の発生防止に資するため、専門家による調査検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## 2 調査箇所

- 東臼杵郡椎葉村大字不土野（小原地区）  
林道 十根川～三方界線の残土処理場

災害日時 令和4年9月18日  
気象状況 24時間雨量  
507mm/24H(9/18 4時～9/19 4時)  
最大時間雨量  
40mm(9/18 17時～18時)



小原地区

林道上部の残土処理場(平成12, 20, 21年度施工)  
林道下部の残土処理場(平成22～25年度施工)

- 東臼杵郡美郷町南郷神門（北又江の原地区）  
復旧治山事業の残土処理場

災害日時 令和4年9月18日  
気象状況 24時間雨量  
666mm/24H(9/18 4時～9/19 4時)  
最大時間雨量  
64mm(9/18 19時～20時)



北又江の原地区

残土処理場(平成30～令和3年度施工)

## 3 業務内容

委員会の対象とする業務は、被災原因の特定、残土処理場に関する設計への助言、その他必要な業務とし、上記2箇所を対象として実施する。

## 4 委員

清水 收 教授（宮崎大学農学部）：砂防学）  
地頭菌 隆 教授（鹿児島大学農学部）：砂防・森林水文学）  
末次 大輔 教授（宮崎大学工学教育研究部）：地盤工学）

## 5 今後の予定

令和4年11月上旬 委員会設置  
〃 11月中旬 現地調査の実施・委員会の開催（以降、必要に応じ実施）  
令和5年3月末 検討結果取りまとめ



# 「ひなたゼロカーボン<sup>ニ-ゼロゴ-ゼロ</sup>2050推進月間」について

環境森林課

近年、記録的な気温の上昇や大雨、大規模な干ばつなど、地球温暖化に起因する異常気象や自然災害が世界各地で頻発し、生活や自然環境に様々な影響を与えています。

この「気候危機」とも言われる状況を回避するため、本県は令和3年3月に「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）」を目指すことを表明しました。

ゼロカーボンの実現には県民の皆様の協力が不可欠であるため、11月を「ひなたゼロカーボン2050推進月間」とし、様々な情報発信を行うことで、日常生活での温室効果ガス排出量の少ないライフスタイルへの転換を図ります。

## 1 令和4年度における推進月間の内容

### (1) 特設WEBサイトの開設

ゼロカーボンに関する情報を発信する特設WEBサイトを開設（公開日：11月1日）

### (2) テレビを活用したPR

#### ① ゼロカーボンに関する特別番組の放送（MRT）

【放送日】11月8日、15日、22日、29日（いずれも火曜日、全4回）

【放送時間】18時55分～19時00分（5分間）

番組終了後、放送内容をYouTube及び特設WEBサイトにアップロードするとともに、DVD化し、県内各中学校や環境保全団体等に配布。

#### ② 情報番組での紹介

11月14日（月）から11月18日（金）まで、MRT情報番組「Check!」（16時50分～18時55分）内のコーナーでゼロカーボンにまつわる情報を紹介。

#### ③ テレビCMの放送

①及び②の番組放送に関連して15秒テレビCMを放送。

### (3) インスタグラムキャンペーンの実施

県民を対象に、ゼロカーボンにつながるエコ活動等の内容とその写真や、宮崎の守りたい風景を投稿していただくインスタグラムキャンペーンを実施。

【応募期間】11月1日～12月31日

※投稿者の中から抽選で10名に宮崎牛をプレゼント

### (4) ポスター・リーフレットの作成・配布

ゼロカーボンについて知っていただくためのポスターやリーフレットを作成し、県内各地や企業等へ配布。

### (5) SNSを活用した広告

YouTube 広告や Google バナー広告の実施（広告期間：11月～3月中旬）

## (6) ロゴマーク

官民一体となりゼロカーボン社会づくりに向けた気運を高めるためのシンボルとして、県民や事業者の皆様幅広く利用していただくロゴマークを作成。



### ① ロゴマークの意味

○の形は「ゼロ」をイメージ。

オレンジは「太陽」、緑は「森林」、青は「海」をイメージしており、本県の豊かな自然環境を生かしたゼロカーボン社会づくりを目指すことを象徴。

### ② ロゴマークの活用

シンボルマークやロゴを単体で使用することも可能。



**HINATA ZERO CARBON 2050**

**ひなた ゼロカーボン 2050**

円の中にゼロカーボンアクションや  
企業名などを記入し、PRに活用することも可能

# JLPGA ツアーチャンピオンシップリコーカップ 建築物等への宮崎県産木材利用促進協定について

山村・木材振興課  
みやざきスギ活用推進室

## 1 建築物木材利用促進協定制度について

本制度は、昨年の「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の成立に伴い、建築物における木材利用を促進するために創設された。

## 2 本協定について

### (1) 概要

令和4年10月31日に、リコーカップを開催する一般社団法人日本女子プロゴルフ協会及び本県を含む5者が、建築物等への県産木材の積極的な活用によるカーボンニュートラルの実現や、SDGsへの貢献などに取り組む協定を締結した。

本協定は、建築物木材利用促進協定制度により本県が締結した第1号の協定である。

### (2) 協定締結者（5者）

一般社団法人日本女子プロゴルフ協会、株式会社リコー、宮崎ゴルフ株式会社、耳川広域森林組合、宮崎県

### (3) 協定の有効期間

令和4年10月31日から令和9年3月31日まで

### (4) 協定の主な内容

- ① 観戦スタンド等への県産木材の積極的な活用
- ② クラブハウスや関連施設等の木造化・木質化の推進など積極的な県産木材の利用
- ③ 県産木材の安定供給や伐採跡地での植林を行い、森林資源の循環利用を推進
- ④ 建築物等への木材利用の取組等の積極的な情報発信

## 3 木製観戦スタンドについて

- 今年度のリコーカップから、協定の取組として、県産木材を活用した観戦スタンド設置
- 1番ホールと18番ホールに、耳川広域森林組合が生産した製材品を使用して設置

